



アルキメデス

飯田市美術博物館自然部門
地域史研究事業ニュースレター

HEUREKA! vol.8

INADANI

ユークラ! イナダニ

発行日 2012年1月10日

発行  iida city museum 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655
飯田市美術博物館 TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail: ic90278@city.iida.nagano.jp



スミナガシの幼虫(2011.7.23 大鹿村)



イチリンソウ(2011.5.2 伊那市)

平成22年度地域史研究概要集

「中央アルプスしらび平周辺に分布する礫層の層序の研究 その2」 下平真樹

中央アルプスの伊那谷側にあるしらび平には層厚10m~40m(以上)の礫層が分布している。これらの礫層は花崗岩の亜角礫~亜円礫からなる巨礫層で、柳町(1983)により、最終氷期前半の2期に渡る氷河前進期に堆積したモレーンの礫層とされてきた。

しらび平北半部の横川上流域および中御所谷の礫層を、径1m以下礫層と径1m以上礫層に分けて区分し再検討した結果、径1m以下礫層は主に氷河底テイル、径1m以上礫層は主に氷河上テイルと判断された。径1m以下礫層には堆積構造として加重~側圧変形構造が認められる。しらび平南半部の横川下流域の礫層は横川上流域で北半部の礫層の下にもぐり込み、北半部の礫層の最下部~下部の層準になることが明らかになった。これにより、南半部は新期の礫層、北半部は旧期の礫層とされてきた従来の層序の見解が正しくないことが判明した。北半部には南半部より新しい時期の、上位の礫層が重なっている。

「豊丘村から天竜峡にかけて分布する

細粒苦鉄質岩と天竜峡花崗岩との接触部付近に介在する花崗岩の調査」

手塚恒人

伊那山脈西麓の天竜川沿いでは、喬木村寺の前から天竜峡にかけて、細粒苦鉄質岩に伴って天竜峡花崗岩が分布している。それで、地質図では細粒苦鉄質岩と天竜峡花崗岩が隣接しているように描く。ところが、細粒苦鉄質岩と天竜峡花崗岩との接触面が露頭として現れているのは、天竜峡花崗岩と相互に貫入した細粒苦鉄質岩岩脈と細粒苦鉄質岩本体が天竜峡花崗岩中に貫入した天竜峡の一箇所である。他の所では、細粒苦鉄質岩本体と天竜峡花崗岩本体の間に天竜峡花崗岩以外の花崗岩が狭い範囲に介在する。この花崗岩の由来を探ることは、細粒苦鉄質岩質マグマのはたらきを探る上で重要であると考えて、調査をすることにした。調査した結果、本来の細粒苦鉄質岩は、角閃石を欠いて単斜輝石を含むと考えた。花崗岩は、磁鉄鉱を含むものとそうでないものがある。それらを視点に、今後も調査を続ける。

「風穴山岩塊斜面の森林植生・その2」 明石浩司

風穴山は飯田市北西部にあり、その南東斜面の標高1700m付近は岩塊斜面となっている。コメツガやサワラなどの針葉樹が主体で、独特の植生と考えられたため、筆者は昨年度から毎木・植生調査を行っている。昨年度成果では、本来コメツガやトウヒが優占し、調査地は何らかの原因で林冠層が欠損してダケカンバが先駆的に定着したと考察した。今年度成果では、ダケカンバが成立する前からコメツガが成立していることが示唆された。したがって、現状ではダケカンバが林冠を構成しているが、ダケカンバが衰退すればコメツガ等が優占する針葉樹群落に代わることが予想される。

「ハナノキ湿地周辺の絶滅危惧種の発見・3

—長野県R.D.B.絶滅危惧植物 I A類 I B類 II 類種— 北沢あさ子

ハナノキ湿地周辺で発見した絶滅危惧種 II 類種以上で市町村別未発表植物は次のものがありました。

I A類	カミコウチテンナンショウ	南木曾町
	カラタチバナ	南木曾町
	キバナハナネコノメ	阿南町
II 類	アケボノシュスラン	飯田市

標本の寄贈

上記の植物と絶滅危惧種、その他約360点を飯田市美術博物館に寄贈した。採集地は飯田市、阿智村、阿南町、南木曾町、大桑村、辰野町など。サクライソウ、サクラバハンノキ、サルメンエビネ、ナツエビネ。 標本には上記の他に下記の絶滅危惧植物も含まれます。

ミカワバイケイソウ、アオフタバラン、イチヨウラン、タチキランソウ、サギソウ、アギナシ、ヤクシマヒメアリドオシラン、クロバナウマノミツバ、キリシマミズキ、カザグルマ(白花、紫花)、カリガネソウ、サルメンエビネ、ナツエビネ、サクライソウ、サクラバハンノキ、ツゲ、ミヤマツチトリモチ、タガソデソウ、コケイラン、など



カミコウチテンナンショウ
Arisaema ishizuchiense Murata
subsp. *brevicollum* (H. Ohashi et J. Murata) Seriz.

「野口の森里山づくり」と植生モニタリング」 野口の森里山づくりの会 石井美久

里山の地主のご好意で私の家の近くにある雑木林（飯島町赤坂地区、野口の森）の整備をすることになった。人家や畑に隣接してはいるが30年ほど前に伐採した後、全く手が入っていない。整備のために木を切るのではなく、木を利用し、山の産物を利用するために木を切る、という仕組み作りを実践し、結果として生物多様性が維持されることを実現したいと思っている。整備と平行して専門的な手法で植生を調査しデータを残すことにし、最初の調査を行った。植物相調査では木本種51種、草本種34種、計85種を記録した。このうち、長野県RDB準絶滅危惧種2種、外来種1種であった。植物社会学的植生調査では、コナラ、クリ、あるいはカスミザクラ、アベマキが優占、混交する夏緑広葉樹林、いわゆる雑木林の相観を呈していた。下層には、ソヨゴ、ウワミズザクラ、エゴノキ、イヌツゲ、アオハダが目立つ。皆伐後放置されていたため、階層が発達し、高密度な林分構造となっている。長い間手が入っていないため季節相の多様性も低下しているものと考えられる。今後の管理による季節相の多様化が期待される。これから続ける作業で徐々に林内に日が差すようになり、木や草がどのようになっていくのか楽しみである。

「イワウチワの葉緑体DNAハプロタイプの地理的変異」

分子植物地理学研究会(佐伯いく代)

イワウチワ (*Shortia uniflora*) は、イワウメ科イワウチワ属の多年草で、日本海型ブナ林の構成種のひとつである。本研究では、イワウチワの葉緑体DNAハプロタイプの分布を調べ、その結果をブナのものとは比較することにより、(1)イワウチワとブナが共通の分布変遷の歴史をたどった可能性があるか、また(2)長野県南部地域が最終氷期最盛期のイワウチワのレフューシアで本州日本海側に分布拡大した際の起源地であったかどうか、の2点を検証することを目的とした。本州の8か所の自生地より17個体のイワウチワを採集・解析したところ、7種類のハプロタイプが検出された。これらのハプロタイプは明瞭な地理的まとまりをもって分布しており、長野県南部のハプロタイプは、日本海型ブナ林の分布域のハプロタイプと異なるものが出現した。したがって、長野県南部から北陸・東北地方日本海側へとイワウチワが分布を北上させた可能性はきわめて低いと考えられる。一方、長野県周辺域で特異なハプロタイプが出現する傾向はブナと共通しているため、今後は、ほかの地域のハプロタイプも含めて詳細な比較を行う予定である。

「伊那谷の植物相、植生調査」 南信州植物・植生調査会

今年度は、飯田市名古熊～毛賀沢（239種を記録）、飯田市南信濃便ガ島（121種を記録）、飯田市上村しらびそ峠～尾高山（85種を記録）、飯田市上飯田摺古木山（113種を記録）にて調査会を行った。長野県レッドリスト記載種は、ノゲヌカスゲ、ヒメカンオイ、タチガシワ、イワオモダカ、ヒトツバテンナンショウ、ヤシャビシヤク、ヤマシャクヤク、ギンラン、サワリソウ、ヤマユリ、ミヤマタニワタシ、チョウセンナニワズ、イラモミを確認した。植生調査は、ハリモミ林1ヶ所で行った。

このほか、会員の石井佳代子、上野勝典・由貴枝、大田秀子、林芳人、峯田美智子が、自主調査により、県内では絶滅したとされるジロボウエンゴサクをはじめとしてヒダボタン、イワヘゴ、タヌキマメ、アオホオズキ、ミスミソウなど、南信地域に生育する長野県レッドリスト記載種42種の標本を作成した。

飯田市美術博物館にはトータルで401点の標本を寄贈した。

「長野県産陸・淡水産貝類の分布と変異」 飯島國昭

昭和43年頃から長野県の1000地点を目標に陸産貝類の調査を行ってきた。標本数は、9,300位となり、これら標本のデータベース化はほぼ終了した。標本は採集地別にしていたので、同定の正確さを帰すためにもと種毎にする作業を行った。2月末までに、長野市の一部と千曲市を残し仕上げができた。その間、分類等の再検討をおこなった。結果①ほぼ確実と思われる種・②2種類以上が混在又は誤同定をしているかもしれない種・③はっきりせずSP.とした種の3グループに分けられた。今後、不確かな種等については全国の専門的な人に同定をお願いし、その上で長野県の貝類の分布(水平・垂直)と変異を明らかにし冊子としてまとめたい。その後、データと共に全標本を寄贈したいと考えている。

「ヤマネの分布境界域における調査研究」 三石邦廣

2001年12月に飯田市上村日陰岩の民家で、関西のヤマネと思われる1個体が偶然発見された。そのため、その民家に近い飯田市上村1番地および同程野山国有林が、関西と関東のヤマネの分布境界域に当たるのではないかと仮説を立てて調査を行った。調査方法は、ヤマネの目の縁取りの形態を写真撮影すること及びDNA解析を行うこととした。その結果、本調査場所のヤマネは、静岡グループに属すること及び目の縁取りの形態は均一に黒いことが判った。同時に調査した飯田市上郷野底山財産区有林の個体は、山梨グループに属する関東系のヤマネであり、目の縁取りの形態は、ギザギザしていて均一に黒くないことが判った。しかし、飯田市上村の調査場所が関東と関西のヤマネの分布境界域に当たるかどうかは、さらに調査が必要である。(DNA解析は北海道大学安田俊平先生による)

平成23年度研究協力者、研究テーマ一覧

本年度は、地質・地形、生物全般、植物・植生、動物の4分野にわたり、
以下9名、2団体の研究協力を得て事業を進めております。

地質・地形 (3件)

- 下平眞樹 「中央アルプスしらび平周辺に分布する礫層の層序の研究(その4)」
- 手塚恒人 「豊丘村・喬木村付近の天竜峡花崗岩中の含む単斜輝石細粒苦鉄質岩脈について」
- 矢口紘史 「ミソバタ層を探れ! ~ミソバタ層の起源と成因~」

生物全般 (1件)

- 平田大輔 「下伊那に生息する生物の食用資源面に関する調査」

植物・植生 (4件)

- 北沢あさ子 「長野県南部ハナノキ湿地の植物の現状報告」
- 南信州植物・植生調査会 「伊那谷の植物相、植生調査」
- 深町篤子 「木曾山脈の冷温帯溪畔林構成種と立地環境の対応関係」
- 野口の森里山づくりの会 「放置雑木林の利用・管理開始と植生変化のモニタリング」

動物 (3件)

- 小椋吉範 「雨の日の夜間に路上で見られる両生類の季節的变化~松川町生田の県道において~」
- 飯島國昭 「長野県産陸・淡水産貝類の分布と変異」
- 三石邦廣 「ヤマネの分布境界域における調査研究」

お知らせ

★ 第16回 伊那谷自然史発表会 研究発表者募集!

主催 飯田美博・伊那谷自然友の会

小学生から大人まで伊那谷の自然好きが顔をそろえる発表会です。一年間温めてきた調査・研究発表の他、テーマを持った写真の発表、海外旅行や登山の報告など、自由に気楽に発表してみませんか?

日程 2012年3月18日(日) 午前10時~午後5時(予定)

発表申し込み 2月23日(必着)までに美術博物館四方宛に郵便、FAX、E-mailなどで下記の項目をお知らせください。なお、発表者には追ってA4一枚ほどの要旨を提出していただきます。

- 1.発表者(団体)名、2.発表者(団体発表者)住所・電話(あればFAX・E-mailアドレス)
- 3.発表タイトル、4.発表の形式(口頭発表、ポスター発表、口頭・ポスター両方のどちらか)を選択、5.口頭発表につきましては、スライド、OHP、プロジェクターなどの使用機材もお知らせください。

問い合わせ・申し込み

〒395-0034 飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館 四方・村松・蛭間

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail ic1593@city.iida.nagano.jp